

1.これまでに、若年性認知症の方の支援を行ったことはありますか？

ある	ない
7名	17名

2.あると答えた方はどんな支援をされましたか？

- ・地域の情報提供 受診支援
- ・空白期間の対応、B型作業所へのつなぎ等
- ・精神科デイケアでの通所対応
- ・居場所の確保
- ・医療機関の調整、介護保険申請手続き、地域との連携、就労相談
- ・就労継続支援、介護保険の申請および利用、住宅支援、認知症 DC
- ・義父母と本人のサービス導入のためのカンファレンスに参加。

3.現在、若年性認知症の方を支援していますか？

支援している	支援していない
5名	20名

4.現在、若年性認知症の方を支援している方で、コーディネーターの支援が必要な方は居ますか？

いる	いない	無記入
3名	13名	0名

5.若年性認知症支援コーディネーターの役割について理解できましたか？

とても理解できた	まあ理解できた	難しかった
14名	8名	1名

6.若年性認知症の方の支援について理解できましたか？

とても理解できた	まあ理解できた	難しかった
13名	10名	0名

7.若年性認知症の方の支援の中での課題について理解できましたか？

とても理解できた	まあ理解できた	難しかった
11名	11名	1名

8.業務の中で、若年性認知症の方の支援の際に他職種連携について課題に感じる事がありますか？

ある	ない
11名	12名

9.他職種連携について課題に感じている方に質問です。それはどんなことですか？

- ・以前相談のあった事例についての支援、ありがとうございます。
- ・誰が主体になって動くのか 説明したことがかみあっていない時もある。
- ・顔の見える関係が作れてないため連携がうまくできていないと思います。
- ・離島では対象当事者が少なく、支援密度を上げられそうにない。
- ・「会った事がない」「経験がない」と言われ説教的には関わってもらえない
- ・事例報告の中にもありましたが、医療機関との連携(受診・入院・退院等調整について)が上手くいかなかったりがある。
- ・サービス事業所に相談しても、若年性認知症の人の理解がされておらず、受け入れが難しいところがまだまだある。広報していき、一緒に支援できるような体制を築いていけたらいいと思う
- ・本人の意向に沿わない支援が、報連相のないままに行われていた。・継続できない支援(支援者が労働時間外に送迎や買い物支援など)が行われている。
- ・若年性に関してコーディネーターの役割が多くあるため、その負担を軽減させるためにも多職種でできる範囲は助け合わなければ、対象者への支援にもつながらないと感じた。
- ・まだ、高齢者認知症の方と同じ方向性での支援に当てはめがち
- ・自分自身が制度に弱いと思う。就労支援で企業との連携に不安を感じる。

10.今回の研修についての満足度を教えてください。

とても良かった	まあ良かった	良くなかった
16名	8名	0名

11.今後の研修会の開催についてどちらが良いとおもわれますか？

オンライン開催	会場開催	無記入
21名	5名	1名

12.上の質問について、選択した理由は何ですか？(例：会場→オンラインだとネット環境が不備等)

- ・コロナの状況に応じて
- ・離島から参加しやすいが、どちらでもあるいはハイブリッドも良さそう、
- ・沖縄県外なのでオンラインだと有難いです
- ・どちらも有用だと思います。
- ・事務所やタブレットから参加出来たりするため便利。
- ・会場まで足を運ぶのに時間を要するため。

- ・感染状況に関わらず参加でき、移動時間もかからないため。
- ・会場開催だと、会議終了後参加者との意見交換も直接できるかなと思いました。
- ・移動距離やコロナ感染の面を考慮して
- ・どちらも選択できれば...
- ・オンライン体制が職場にあり、コロナウイルス感染者の増加も考慮してオンライン参加を選択した。
- ・現状、感染対策の観点です。
- ・コロナ禍でも安心して参加できる
- ・ぎりぎりまで仕事ができるので助かります。

13. 今後の研修について要望や感想等あれば記載ください。

- ・実際の事例を通した研修がとても分かりやすかったです。
- ・沖縄県に1名だと仕事量が多いと思うがその後人数は増やす予定はあるのか。一人でこなすには大変だと思う。
- ・今まで、若年性認知症の方の支援をしたことがなく、漠然とどう対応したらいいのかと思っていましたが、今回の研修で、多くの事例を交えながらお話をいただいたので、大まかな流れについてイメージすることができました。ありがとうございました。
- ・苦勞したことや、工夫されたことなど具体的な話も知りたい
- ・認知症(若年性認知症含め)地域へ周知していくなかでの多職種や行政・地域住民・企業・学校との連携についての内容等
- ・安次富さん、お疲れさまでした。ありがとうございました。本人だけでなく、家族の支援も重要なことがとてもわかりました。支援するための制度も複雑で、窓口も様々なので、相談窓口を一本化する若年性支援コーディネーターの役割は大きいと思います。しかし、コーディネーターの人数も限られていて、地域で解決できることは地域で解決するのがベターだと思います。
- ・高齢者支援に関わる機関以外にも障がい福祉との連携や協力も必要だと思います。次回はぜひ障がい福祉に携わる方々のご参加もお願いしたいです。
- ・講和の内容がとても詰め込まれていたため、一回での理解が難しい。若年性の方と接する機会もないため、また講和を希望したい。
- ・今回、事例もありとても印象に残りました。まだ、高齢者の事例程多い症例ではないと思うので支援方法、アプローチの仕方など、より多くの事例をご紹介していただけると、若年性認知症の方々の相談があった際に参考になると思います。本日は、ありがとうございました。
- ・事例を通しての説明が良かったです。

以上